

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 1月 20日

事業所名 にしはら太陽の子

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		一人の方が落ち着いている場合は、個室で過ごせる配慮も出来ている	
	2 職員の配置数は適切である	○		規定に基づき行っている	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		極力段差を解消し、スロープを設けている	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			令和3年12月にアンケートを取り、結果を元に業務改善及び支援に繋げていく
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		グループのHPで公開し、アドレスの検索方法を入りに掲示している	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後検討していく
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		多種多様な研修に参加している	外部だけではなく、事業所内でも研修の開催を検討する
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ミーティングを常時行い、意見を出し合って立案している	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		支援記録等を付け、担当する児童を替えて偏らないようにしている	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		毎日担当リーダーを決め、個別支援と集団支援をスタッフで協議して提供している	支援内容がマンネリ化しないように、個別支援・集団支援共に「出来ないかも、ではなくやってみる」を基本に提供を協議していく
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		平日は毎日13時30分よりミーティングを開催している	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後、原則として17時以降に振り返りを実施している	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個人別に支援記録を作成している。毎日記入し、出来た事反応の変化等、後日以降の参考にしている	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月に一回以上モニタリングを行っている	モニタリングの記載内容や書式等、改善できるところはないかミーティングで確認している	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		会議の前に児童の状況や気になる点など協議した上で参画している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時に必ず利用児童の状況を確認している。	一部の学校において、担当の先生とお話ができない状況にあったが徐々に改善している。これからも学校での様子を話していけるよう学校側に働きかけていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現在対象になる児童は居ない	受け入れ可能になり時期が来ることも想定して、情報収集に心掛けることを指示していく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		未就学からの新規利用が無く、連携できていない	定期的に活動や空き状況を発信し、新規利用に繋げると共に情報共有を行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		口頭で伝える事が多い	今後は紙媒体での書式を統一し、児童の特性などを考慮した情報を作成する
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		管理者会議の分科会で協議・連携し、スタッフにも周知している	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			コロナ禍の中でも可能なイベントはないか協議していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			協議会等はオンラインでの開催が多くなったが、コロナ禍以前の状況と同じように情報収集を心掛ける
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時にご家族に対し、口頭で活動状況を述べ、動画や写真でも提供している	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			ペアレントトレーニングに関する勉強会の実施を検討する	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に文章で説明し、サイン捺印をもらい、質疑があれば答えている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			コロナ禍で開催困難であったが、今後は感染状況を考慮しながら保護者会を開催の検討を行う
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月行事予定表を配布し、変更がある場合は緊急性に応じて電話連絡もしくはメールで連絡している	
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		同グループ内のB型事業所にて収穫体験を実施できた。	清掃作業で地域と密着できないか検討する

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			感染症マニュアルに関しては、コロナ禍以降で改善できる点が無いか、グループ内の連携先とも協議していく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年度内に2回、消防避難訓練を実施している	今年度もコロナの影響はあったものの、1回は消防士立会いで訓練が実施された。今後も立会いにて訓練の改善点等協議していく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束を行っている児童は居ない	スタッフに対し身体拘束3原則を常に意識し、グループ内の同業種とも連携し、管理者会議の分科会を利用して事例等情報収集していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		指示書は無いが、利用契約時にアレルギーの有無を家族に対して確認している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			